

ICT を活用した学習場面

B4 表現 C4 学校の壁を越えた学習

外国語科	6年3組 笠木 佑美
単元名 My Discover Japan デジタルブックを作って、APUの国際学生に日本の魅力を伝えよう(Welcome to Japan) (7/7)	
本時のねらい： APUの国際学生に日本の魅力を伝えるために、自分が一番伝えたいと思う日本の魅力について、単元ゴールを確かめてからリハーサルをしたり魅力が伝わる発表かどうか考えながら友達の発表を聞いたりすることを通して、日本の行事や文化、食べ物などについて、自分の考えや気持ちが相手に伝わるように話すことができるようにする。	
評価規準： APUの国際学生に日本の魅力を伝えるために、日本の行事や文化、食べ物などについて、自分の考えや気持ちなどが相手に伝わるように話している。【話すこと(発表)思考・判断・表現】	

指導の流れ

児童の活動 (ICT 活用の様子)・ICT 活用のねらいや留意点

- これまでの学習を振り返り、単元ゴールや本時のめあてを確認する。
その後、グループごとに発表会場(3か所)に移動し、発表の準備をする。
- Web 会議アプリ (Zoom)を用いて、APUの国際学生と出会い、自己紹介を聞く。
- My Discover Japan デジタルブック(ロイロノート)**で、日本の魅力について **APUの国際学生に伝わるように発表する。**



- APUの国際学生に **My Discover Japan デジタルブック**の内容が伝わるように、写真を指差したり相手の反応を見たりしながら発表するようにする。
- APUの国際学生から、発表についてコメントをもらう。
 - 本時の振り返りをする。

ICT 活用の効果 (困りが解決されたか)

成果：今年度は、コロナ禍のため、外国人留学生と交流する機会を持つことができない状況が続いていた。「児童同士のコミュニケーションだけで本当に英語が伝わるのか心配だ」という児童の振り返りもあった。今回、オンラインで別府市内在住の外国人留学生と実際に交流をすることで、自分たちの英語が伝わったと実感することができていた。ロイロノートを使って **My Discover Japan デジタルブック**を作ると、話の内容に合わせて画像を拡大したり相手の反応に応じて見せたい部分を強調したりすることができていた。紙面ではなくロイロノートを活用することで、児童がより伝えたい内容について、内容を整理して話すことに繋がったと考える。さらに、「外国人留学生との交流」という本物のコミュニケーションを取り入れることで、外国語に対する児童の学習意欲の向上にも繋がった。

課題：今回は防音やハウリングに配慮し、オンライン交流の場所を3か所準備した。その際、担任以外に教室について児童の様子を見守るため、計3名の教員で交流を行った。しかし、実際に交流を始めると音が聞こえにくかったり映像が流れなかったりなど不具合が生じる場面もあった。オンライン交流の際には、担任以外に ICT 支援員も指導に入り、適宜支援を行う必要がある。